

市民と語る会実施報告書

令和5年9月28日

鹿角市議会議長

代表者 金澤大輔

1 市民と語る会の概要

開催日時	2023年9月28日（木）15:00～17:00
開催場所	鹿角市立花輪中学校 ワークホール・教室
出席議員	1班 湯瀬弘充・戸田芳孝・黒澤一夫（報告者：湯瀬弘充） 2班 浅石昌敏・成田哲男（報告者：浅石昌敏） 3班 笹本真司・館花一仁・兎澤祐一（報告者：笹本真司） 4班 丸岡孝文・栗山尚記（報告者：金澤大輔） 5班 金澤大輔・児玉悦郎・中山一男（報告者：金澤大輔）
参加者数	<u>男性 15人</u> <u>女性 12人</u> <u>計 27人</u>
実施内容	別紙のとおり
質問・意見等	別紙のとおり
その他 特記事項	



花輪中学校2年部の「はなふる未来グループ」では、鹿角市を元気にするプロジェクトに取り組んでいます。当日は5つのグループから、鹿角市の課題解決に向けた「鹿角を元気にするための方策」について、プレゼンテーションを受けました。

その後、市議会議員を交えて、それぞれのプレゼンテーションを基に、鹿角市を元気にするための意見交換を行いました。

第1部 プレゼンテーション「私たちが考える鹿角を元気にする方策」

1班 「人口増加で鹿角を元気にする」



方法1

四季の魅力を生かした観光コンテンツなどを充実させることにより、一時的に人口を増やしていく。

具体的には、スキー場を活用したアトラクションや、スキー場以外での雪を利用した雪まつりや雪合戦などのイベントを開催し、併せて出店などで郷土料理をふるまう。また、冬以外にも山を活用したジップラインやアスレチックなどを整備し、鹿角市の自然と触れ合ってもらい魅力を発信する。

方法2

子供の数を増やすために、育児環境を整える。

具体的には、子育てボランティアを募り、地域で子供を育てる仕組みを作り、いろんな世代と触れ合いながら成長できる環境を整える。

また、洋服のリユースなど育児に係る金銭的な負担を軽減する工夫もしていく。

【質問・意見等】

Q. なるべくコストをかけないように工夫していると感じました。人口を増加させるためには、恒久的な取り組みが必要と思いますが、なぜ一時的な人口増加を目的としたのですか。

A. まずは鹿角に興味を持ってもらうことが大切と考えました。北海道の東川町では観光業者を招聘した意見交換やスノーボードを活用した事業などで人口を増やしています。

意見：スキー場の利用はすごくいい発想だと思います。夏場は段ボールなどを使った遊びができるほか、パラグライダーなどのアクティビティも考えられますね。

2班 「鹿角の施設の少なさについて」



方法1

老人ホームを建設する。土地活用として収益性の高く、在宅介護をする家族の負担軽減も図られる。労働力不足の課題については、介護ロボットの導入により介護人材の心身の負担を軽減する。

方法2

不登校児童生徒のためのフリースクールのような通所施設を建設し、学校や家庭以外でリラックスできる居場所を提供する。

【質問・意見等】

Q. 不登校対策は今後大切になってきます。具体的な取り組みは考えていますか。

A. これから考えることにしています。

Q. 老人ホームが少ないと感じているかもしれませんが、これから高齢者の人数は減っていきます。施設よりもサービスを充実させることも必要と思いますがどう考えますか。

A. そのとおりだと思います。

意見：不登校の原因など、抜本的な解決策を追加することでさらに魅力的な提案になると感じました。

3班 「動物との共存について（熊対策について）」



中学校周辺で目撃が多いツキノワグマからの被害を防止する。

方法 1

熊にGPSを取り付けて位置情報を把握。

方法 2

唐辛子などの忌避剤を散布し熊を寄せ付けないようにする。

方法 3

熊の俊敏さを体感するために競争してみる。

方法 4

北海道で導入の成功例がある、熊よけのための新装置「クマどん」を設置する。

【質問・意見等】

Q. 日本に生息している熊の種類は。

A. ヒグマとツキノワグマの2種類。

意見：熊と競争させるという案は、人間の意識の本質に着目したおもしろい発想だなと感じました。

意見：どの方法も具体的に提案されて素晴らしいと感じました。

4班 「鹿角の流行遅れについて」



花輪中学校の2年生に「鹿角地域は流行が遅れている」と感じているかアンケートを実施したところ、約7割が遅れていると回答。

その要因を人口、特に若者が少なく、その意見が取り入れられにくいことと捉え、人口の交流により解決する。

方法1

桜中学校や横手南中学校と交流することで流行を捉えていく。

方法2

茜染めや紫根染めなどによる小物など、鹿角市の伝統を生かして情報発信を行う。SNSを活用し、姉妹都市のショプロン市など海外に向けても積極的に行う。

愛知県ではホームページ等の情報更新が活発に行っており、流行遅れを予防している。

InstagramやX（旧Twitter）、TikTokなど様々な媒体を活用していく。

【質問・意見等】

Q. 流行の中でも、鹿角市は具体的に何が遅れているのかという意見はありましたか。

A. この場で詳しくお伝えできませんが、かなり多くの意見がありました。

Q. 年代により流行は違うと思いますが、今の中学生の流行は何ですか。

A. ひき肉です！

Q. 他の中学校との交流を秋田県内に限定している理由は何かありますか。

A. 県内の中学校を足掛かりに、交流の輪を広げられたらいいと思っています。

意見：姉妹都市のショプロン市との交流はすでに行っていますが、中学生との交流も実現できるように取り組んでいきます。

5班 「鹿角のPR不足について」



鹿角市のPR不足を「かづの牛」や「北限の桃」などの特産品を活用した情報発信により解決する。

花輪駅前のかづの牛の自動販売機や果物狩りなどを楽しむことができる施設、特産品を入手できる店舗等お知らせするほか、郷土料理や特産品を使った料理のレシピを商品に同封するチラシやYouTubeなどで紹介する。

また、福島県の取り組みを参考にYouTuberとコラボレーションして、宣伝効果を高めていきたい。

【質問・意見等】

Q. 特産品を使った料理は実際に作ってみましたか。

A. 実際に調理はしていません。

Q. 実際に調理しているところから、食べた感想までを動画にまとめてみるのも大切だと思います。いろいろな郷土料理があるので、作り方などを教わる機会を設けてみるなどしてみてはどうですか。

A. やってみたいと思います。

第2部 熟議「鹿角を元気にするためには」

第1部のプレゼンテーションを行ったグループ別に、市議会議員を交えて「鹿角を元気にするため」の意見を出し合いました。

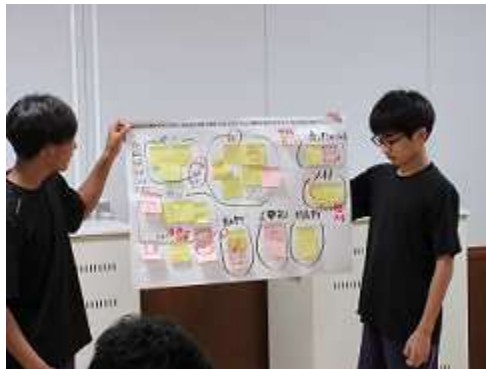
【意見交換の様子】



1. それぞれのアイデアや意見を付せん用紙に記入し、模造紙に貼り付けていきます。
2. 貼られた付せん用紙をジャンル別にグループ化します。
3. グループ化したアイデアや意見をまとめます。
4. まとめたものを発表し、意見やアイデアを共有します。



【発表の様子】



今後は、出された意見やアイデアを実際に行動に移してみることで、頭で考えるだけでは得られなかった多くの気づきが生まれると思います。市議会では、今後もさまざまな交流を通じて生徒たちの成長をサポートしたいと考えています。